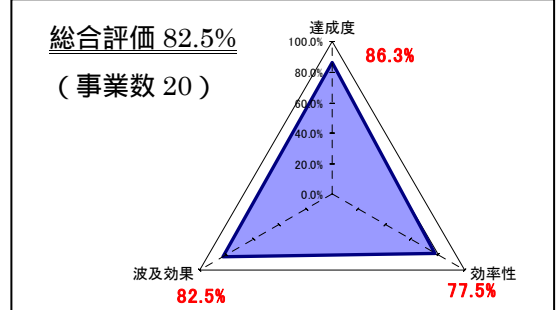






基本施策(4分野)の評価事例 平成21年度評価

1 地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化

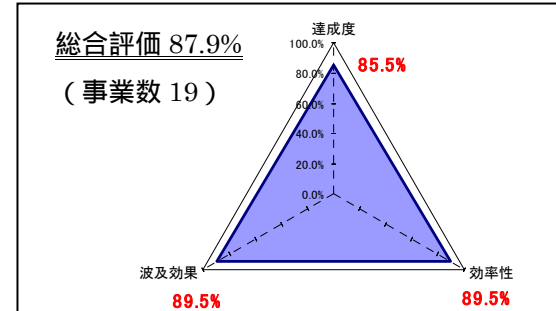
地域の特色を活かして、市民・事業者・行政等が力を合わせて様々な環境活動に取り組むとともに、その輪を広げている。他の部門に比べ総合評価が低くなっているが、21年度は80%台に向上している。(20年度は78.5%)
 新規事業(評価開始した事業): 2事業(まち美化等啓発事業、環境国際協力推進事業)。終了した事業: 1事業(北九州市環境賞)





<p>北九州市環境首都検定 実施日: 21年12月20日 参加者: 830人</p>  <p>21年度から入門編と一般編を設置。子どもから年長者までの幅広い世代から参加。合格率も80%を超え、受検者の環境意識の高さを再認識できる。</p>	<p>北九州エコライフステージの開催 参加者が大きく増加(43万人 57万人)し、市民・企業・NPOとの協働事業として発展している。シンボルイベント「エコスタイルタウン」も、93団体・15万人を記録し市民に環境の環が広がっている。</p>  <p>エコスタイルタウンの様子</p>	<p>アジアの環境人財育成拠点形成事業 研修員受入: 52コース 439人 (H18からの4年間で1,688人)</p> <p>環境国際協力推進事業 都市間ネットワークの拡大を目的に、タイ及びインドネシアにて、廃棄物管理に関する協力事業を実施。</p>  <p>バンコク都でのコンポスト実践セミナー</p>	<p>菜の花プロジェクトの推進 33団体から561kgの菜種を回収。幅広い年齢層からイベントに参加があり、増加するなど全市的な取り組みとして広がりを見せている。</p>  <p>菜の花プロジェクト 2009 in 河内温泉</p> <p>リサイクルされたBDFは市営バス等で利用されている</p>	<p>地域循環型生ごみ処理機リサイクル事業 事業を抜本的に見直し、「生ごみコンポスト化容器活用講座モデル事業」に変更。参加者も予想を上回り、参加したほぼ全員がコンポストを実施。22年度から本格的に事業を展開する。</p> <p>市民環境力による3R推進の諸事業 リサイクルプラザについては、民間のリサイクル事業の普及等から21年度末で家具等のリユース提供を中止した。</p>
---	--	--	---	--

2 地域からの地球温暖化対策の推進

平成20年7月に政府から「環境モデル都市」に認定されたのを契機に、低炭素社会づくりを目指した施策がより一層拡充されている。小中学校や水道施設への太陽光発電施設設置や紫川エコリバー整備事業など市民が低炭素社会を身近なものとして感じることができる取組みを展開している。4つの基本政策の中でも総合評価が最も高く、21年度は約88%の評価となっている。
 新規事業: 5事業(市営住宅CO2削減対策モデル事業、水道施設への太陽光発電施設導入、紫川エコリバー整備事業、北九州発!エコドライブプロジェクト、低炭素先進モデル街区形成推進事業)

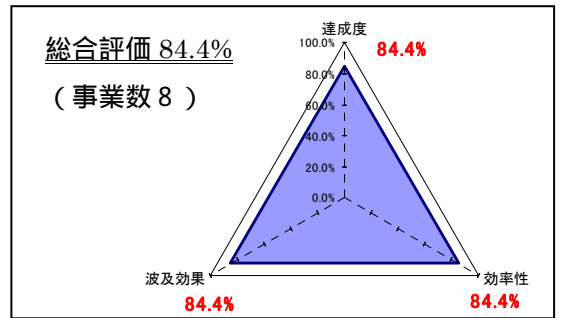


<p>エネルギー関連技術開発及び導入の推進 再生可能エネルギーの導入は、小中学校(61校)をはじめ、水道施設(4カ所)等に太陽光発電を設置。計画通りに進んでいる。</p> <p>水素・燃料電池に関する研究開発は、東田地区に水素ステーションを整備。動車を1台導入。</p>  <p>水素ステーション</p>	<p>小倉都心部におけるヒートアイランド対策 国のモデル事業として民間事業者が建物屋根に高反射塗装を実施。打ち水イベントも市民、事業者、行政等で4件実施するなどの成果が認められる。</p> <p>紫川エコリバー整備事業 魚町エコルーフや勝山橋太陽光発電ルーフを設置し、まちの利便性・回遊性を高めた。市内外からの来訪者に対してのアピールも高い。</p>	<p>モーダルシフト推進補助事業 北九州港を利用したモーダルシフト輸送に対する補助件数が大幅に増え、過去3年間の平均の約2.4倍にあたる約12,000tのCO2削減につながった。</p> <p>ノーマイカー推進事業 イベント開催にあわせ、商店街等と連携したキャンペーンを実施し、6,800人が参加。また、市内企業9社が参加したエコドライブ推進活動も実施している。</p>	<p>次世代エネルギーパーク構想推進事業 21年7月にオープン。パーク内の企業の協力により、週2回の見学受け入れを開始し、のべ約1万4千人が来場した。市民の次世代エネルギーへの理解促進につながっている。</p> 	<p>家庭・建築物省エネルギー改修・新エネルギー導入促進事業 32件の診断を実施し、年度内に1件の省エネ改修を行うなど、一定の効果があがりつつある。</p> <p>地球温暖化対策推進助成事業 太陽光発電は予定の3倍を越す申請があり、259件に補助するなど導入促進につながった。一方で、太陽熱・地中熱利用システムは目標を下回っている。</p>
---	---	---	---	--

3 循環型の生活様式・産業構造への転換

総合評価は、20年度から若干下がったが、84%を越えており概ね良好といえる。

「市民一人一日当たりの家庭ごみ減量」について、平成21年度は約28%（平成15年度比）と前年の約26%を超える家庭ごみ減量化を達成した。また、毎年度実施される市民意識調査では、「ごみの適正処理とリサイクル」の項目が、18年連続で1位（平成22年度時点）の評価を受けている。
新規事業：1事業（産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業）



3 R 技術高度化による新たな環境産業の創出

「3 R 技術高度化研究会」では共同研究会を立ち上げ、環境未来技術開発助成事業に採択されたものがあった。

「環境未来技術開発助成事業」18件の研究を助成対象として採択。また、1件が事業化に結びつくなど成果につながっている。

北九州エコプレミアム産業創造事業
「エコプレミアムの選定件数が、21年度までに155件(127件の製品や技術、28件のサービス)となっており、目標(23年度140件)を既に超えている。



ウォッシュレット 水底環境改善サービス

食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実験事業

小学校、病院等の小規模事業者から生ごみを収集し、エタノールを製造。公用車等で月平均4900の自動車ガソリン（E3ガソリン）として使用。

環境パスポート事業と連携した市民参加型実験を実施。市民710人が参加し生ごみを提供した。

古紙リサイクル推進事業

地域コミュニティを活かした事業であり参加団体が微増(1,759団体)にある。景気後退などにより、回収量(30,519トン)は若干減少している。



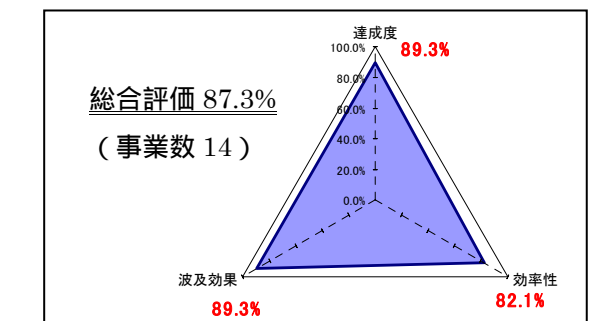
保管庫を利用した古紙回収

エコアクション 21 認証・登録支援事業

「エコアクション 21」の認証取得企業数は16社と前年から倍増したが、目標には及ばなかった。セミナーへの参加数は目標を超えており、次年度以降の成果が期待できる。

4 豊かな自然環境と快適な生活環境の確保

本市では、平成17年に「北九州市自然環境保全基本計画」を策定し、自然環境分野での総合的・計画的な取り組みを進めてきましたが、この基本計画を改訂する形で、「北九州市生物多様性戦略」を平成22年11月に策定した。
総合評価は、20年度から若干下がったが、87%を越えており概ね良好といえる。
新規事業：2事業（工場・事業所監視事業、ダイオキシン類対策事業）



響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業

植樹本数は、21年度末で計5.3万本となっている。また、植樹会への参加者数も年々増加しており、緑化意識の裾野が広がりつつある。



鳥がさえずる緑の回廊 植樹会 (H22 3 27)

自然環境サポーター養成事業

21年度までのサポーター数は195人と目標(200人)をほぼ達成した。サポーターは、里山での活動、希少種の保存活動、自然観察講座の運営補助などの幅広い活動を行っている。
北九州市自然環境保全ネットワークの会の活動推進
自然ネット参加団体数は、21年度で31団体と着実に増加している。年間17の事業を実施している。

里地里山の保全と持続的な利用

小倉南区中谷地区において、地域住民との協働により、漬物コンクールとウォーキングを開催。漬物コンクールは、ラジオや新聞でも報道された。
小倉南区長野緑地で、地元住民を中心としたNPOが農業体験教室を開催。参加者は年々増加しており、21年度は2,319人となった。

光化学スモッグ発生原因の究明に関する調査

揮発性有機化合物、硫酸イオンの測定、分析により、近年上昇傾向による光化学スモッグの原因の調査を実施した。
工場・事業所監視事業
環境法令の規制を受ける工場・事業所への監視・指導を通じて法令順守、公害防止の徹底を図るとともに、市民からの苦情、要望(約280件)に対応した。

市民植樹・美しいまちづくり事業

「わたし記念日」と称した人生の記念日に苗木を配布(年2回)している。配布数が計画と乖離しており、市民への周知をより一層充実する必要がある。(H22年度は約3,800本と増加している)

